

事業評価調書（新規）

部課室名	農政環境部 農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名  (担当者氏名)	課長 坊垣 昌明 (課長補佐兼基盤整備係長 角谷 和一郎)	内線	4003 (4014)
------	-------------------------	-------------------------	-------------------------------------	----	----------------

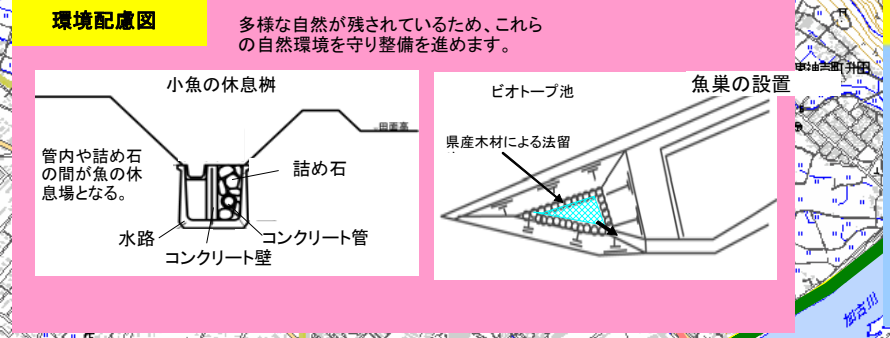
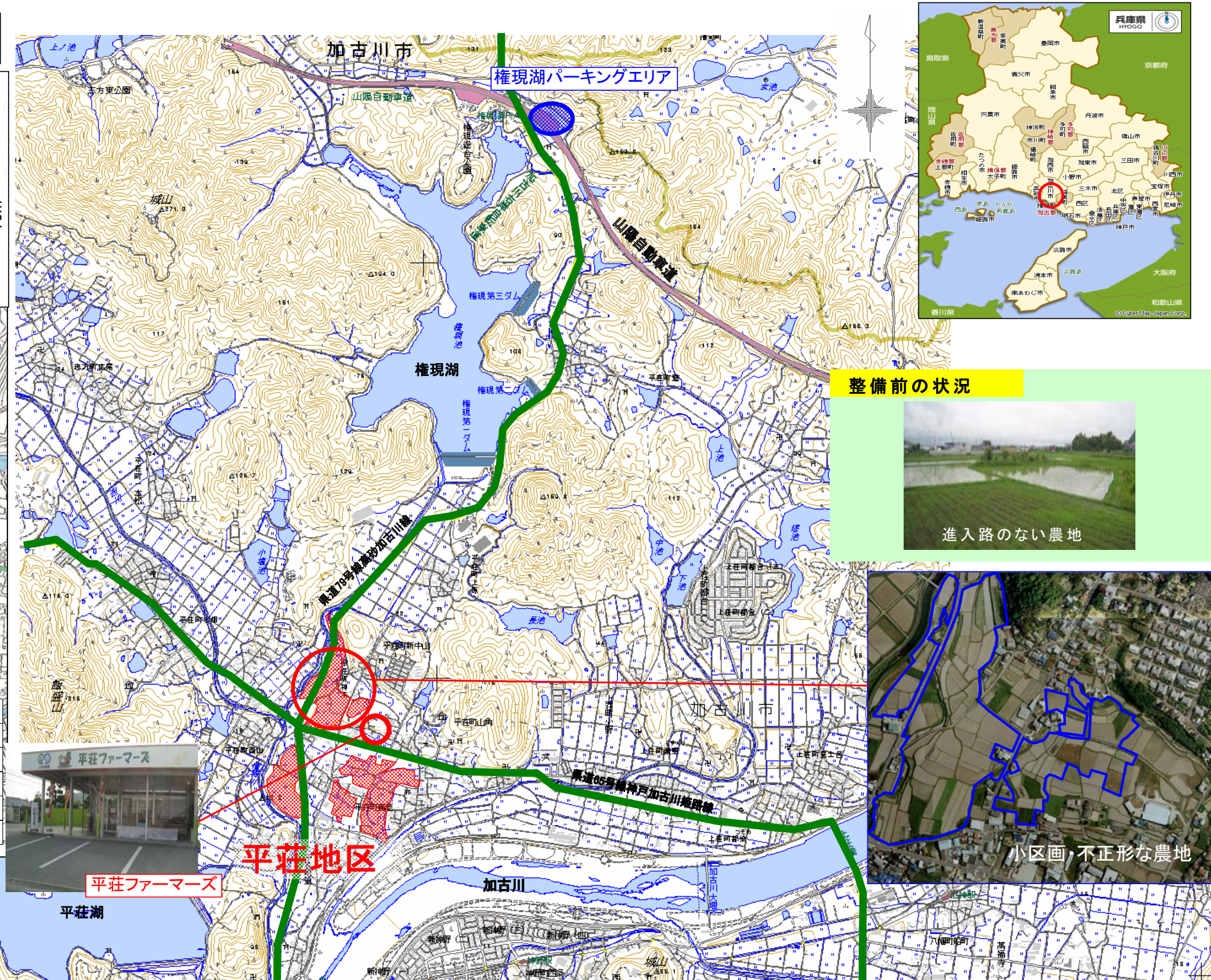
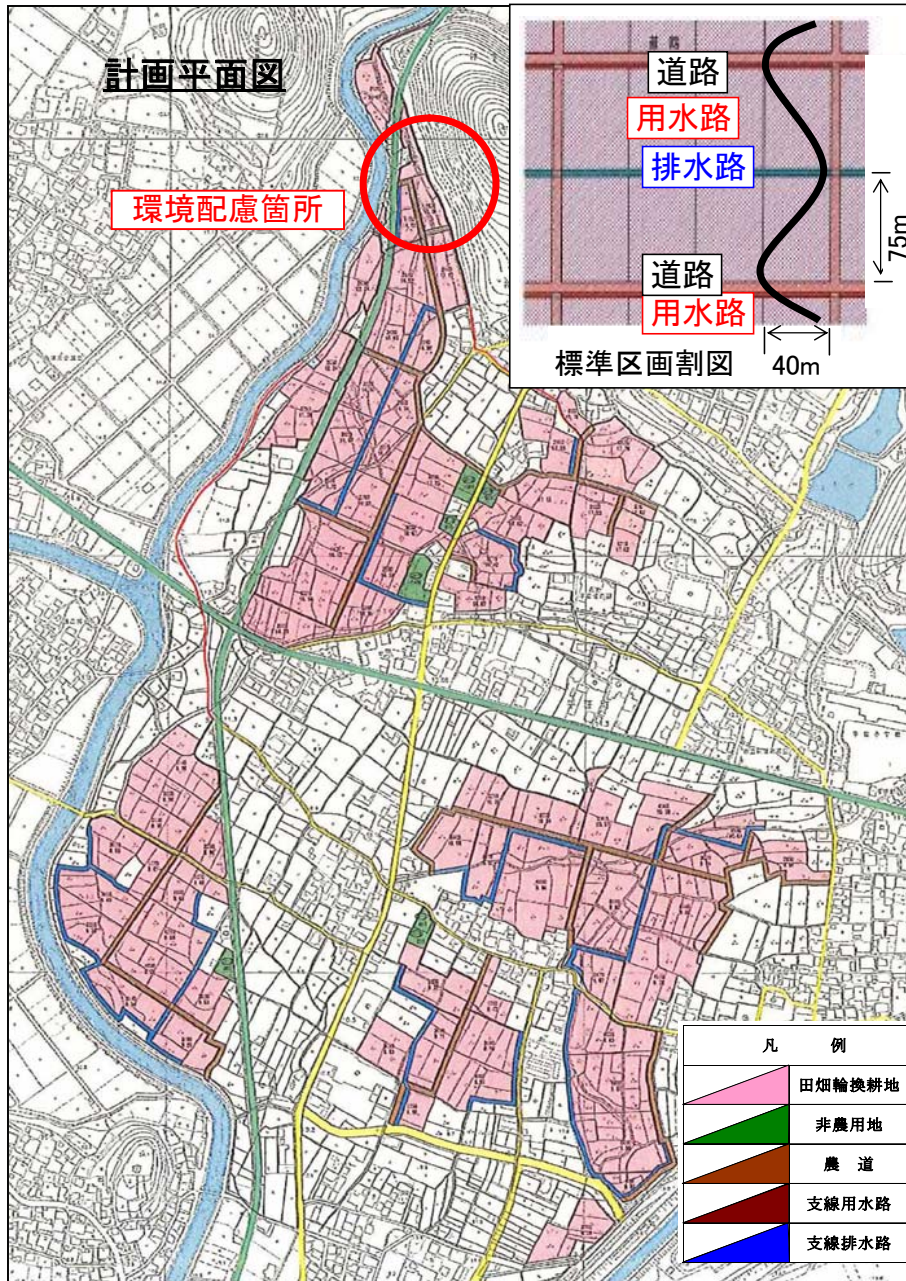
事業種目	ほ場整備	事業名	事業区間	総事業費	約 4.30 億円
		農地整備事業（経営体育成型）	平荘地区 <small>へいそうちく</small>	内用地補償費	0.03 億円
所在地			事業採択年度	着工予定年度	完成予定年度
加古川市平荘町平荘地内			H25	H25	H29

事業の目的	事業内容
<p>本地区は、水稻を中心とした個別経営農家が主体の地域であるが、現況農地は小区画不整形（現況区画6a）で道路水路も未整備なことから、人力や小型機械による営農を余儀なくされ、生産効率の悪さが課題となっている。</p> <p>これらの課題解決に向けた本事業への取組みを契機として、集落内での徹底した話し合いを行い、集落営農の展開や弁当や味噌等の製造販売による6次産業化などを進めていくことを決定した。また、地域農業の発展に向けた計画である「人・農地プラン」の策定に取組み、本事業を契機に設立する集落営農組織を周辺集落も含めた、地域の将来を担う経営体に位置づけることとなった。</p> <p>このような集落の取組みを基礎として、生産基盤の整備及び中型機械の導入、さらには集落営農組織を設立し、当該経営体が生産の相当部分を担う農業経営を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区画整理 24.6ha</li> <li>補助率 国 50%、市 11.25% 県 27.5%、地元 11.25%</li> <li>事業主体 兵庫県</li> </ul>

評価視点	評価結果の説明																																				
(1)必要性	<p>地域農業の維持発展に向けて、下記の作付けを計画。</p> <p style="text-align: right;">単位：h a</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>本地面積</th> <th>水稻</th> <th>大豆</th> <th>ブロッコリー</th> <th>キャベツ</th> <th>大麦</th> <th>計</th> <th>本地利用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現況</td> <td>25.7</td> <td>13.8</td> <td>0.4</td> <td>0.3</td> <td>0.4</td> <td>0.2</td> <td>15.1</td> <td>58.8</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>23.6</td> <td>12.7</td> <td>3.6</td> <td>1.2</td> <td>1.3</td> <td>9.8</td> <td>28.6</td> <td>121.2</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>△2.1</td> <td>△1.1</td> <td>3.2</td> <td>0.9</td> <td>0.9</td> <td>9.6</td> <td>13.5</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※整備により道路幅員・水路断面が拡張されるため、農地面積は減少しています。</p> <p>これら計画の実現のため、①生産基盤の整備を実施し中型機械の導入により、労働生産性の向上を図るとともに、②事業を契機に集落営農組織を立ち上げ、農地の集団化と経営の合理化を進める必要がある。</p> <p>①水稻の10a当たりの労働時間：35.6hr→15.8hr</p> <p>②平荘権現営農組合(H26.4 設立予定)</p> <p>農地の集積面積：現在 0ha (0%) →事業完了時 19.7ha (80%)</p>	区分	本地面積	水稻	大豆	ブロッコリー	キャベツ	大麦	計	本地利用率	現況	25.7	13.8	0.4	0.3	0.4	0.2	15.1	58.8	計画	23.6	12.7	3.6	1.2	1.3	9.8	28.6	121.2	増減	△2.1	△1.1	3.2	0.9	0.9	9.6	13.5	
区分	本地面積	水稻	大豆	ブロッコリー	キャベツ	大麦	計	本地利用率																													
現況	25.7	13.8	0.4	0.3	0.4	0.2	15.1	58.8																													
計画	23.6	12.7	3.6	1.2	1.3	9.8	28.6	121.2																													
増減	△2.1	△1.1	3.2	0.9	0.9	9.6	13.5																														
(2)有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>総費用総便益比 B/C=1.21(総便益額 B=675 百万円、総費用 C=557 百万円)</p> <p>土地改良区を設立し、事業実施に係る地元調整、換地、造成された施設の維持管理を行う予定である。</p> <p>地元同意率は 100% (122 人/122 人) である。</p>																																				

(3)環境適合性	<p>専門家による、現地調査を行った結果、下記の希少種が確認されている。整備の計画にあたっては、希少種の生育環境を守る整備のため、専門家の意見を取り入れた下記の対策を講じる。</p>														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="411 264 671 300">主な希少種</th> <th data-bbox="678 264 794 300">ランク</th> <th data-bbox="801 264 1458 300">対 策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="411 309 671 344">オグルマ</td> <td data-bbox="678 309 794 344">県B</td> <td data-bbox="801 309 1458 344">生息エリアの表土を剥ぎ工事完了時に戻す</td> </tr> <tr> <td data-bbox="411 353 671 389">アゼオトギリ</td> <td data-bbox="678 353 794 389">県B</td> <td data-bbox="801 353 1458 389">生息エリアの表土を剥ぎ工事完了時に戻す</td> </tr> <tr> <td data-bbox="411 398 671 434">メダカ</td> <td data-bbox="678 398 794 434">県要注</td> <td data-bbox="801 398 1458 434">ビオトープ池、水路への魚巢設置</td> </tr> </tbody> </table>	主な希少種	ランク	対 策	オグルマ	県B	生息エリアの表土を剥ぎ工事完了時に戻す	アゼオトギリ	県B	生息エリアの表土を剥ぎ工事完了時に戻す	メダカ	県要注	ビオトープ池、水路への魚巢設置		
	主な希少種	ランク	対 策												
	オグルマ	県B	生息エリアの表土を剥ぎ工事完了時に戻す												
アゼオトギリ	県B	生息エリアの表土を剥ぎ工事完了時に戻す													
メダカ	県要注	ビオトープ池、水路への魚巢設置													
オグルマ	県B	生息エリアの表土を剥ぎ工事完了時に戻す													
アゼオトギリ	県B	生息エリアの表土を剥ぎ工事完了時に戻す													
メダカ	県要注	ビオトープ池、水路への魚巢設置													
(4)優先性	<p>本地区は、個別零細農家による水稲単作の農業を営んでいることから、非効率で収益性が低い状況にある。このため、今後は集落営農の展開を図るとともに、地元農産物を活用した弁当・加工品の製造販売による6次産業化を進め、効率的・安定的な農業展開を図ることとしており、生産基盤の整備を急ぐべき優先性の高い地区である。</p>														

# 平荘地区説明図



■新規事業  
○当初事業

農地整備事業(経営体育成型) 平荘地区 事業スケジュール

工種	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	備考
実施設計	←	→				
区画整理工		←			→	
その他(換地)	←				→	

○B/C根拠  
便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
ほ場整備	①作物生産便益	用水路と排水路の分離により田畑輪換が容易になり、大麦などの作付けが増加すること及び施設整備を行うことにより、適正な水管理により単収が維持される効果 ○作付けが増加する作物 1,708千円/年 キャベツ・大麦(現況0.6ha → 計画11.1ha) ○単収が維持される便益 7,530千円/年 例)ブロッコリー 現況単収1,081kg/10a → 整備しない場合に想定される単収941kg/10a 計 1,934千円/年 評価期間の効果額の計 186百万円
	②営農経費節減便益	農地の拡大や道路の整備によって、農業機械の小型から中型化による労働時間の短縮や、機械の共同利用などによる個別所有機械の処分に伴う機械経費の節減による効果 例)水稲 労働時間 現況35.6時間/10a → 計画15.8時間/10a 機械経費 現況 144千円/10a → 計画45千円/10a 評価期間の効果額の計 486百万円  ・参考(機械保有台数) 現況 219台 → 計画58台
	③維持管理費節減効果	水路の新設や農道の拡幅などにより、管理する施設が増加することによる維持管理費の効果 ○現況の施設管理費－事業実施後の施設管理費 = 3,309千円－4,127千円 = △818千円/年 評価期間の効果額の計 △15百万円  ・参考(主な管理施設数) 現況 水路8.8km 砂利舗装6,277㎡ → 計画 水路6.0km 砂利舗装13,060㎡
	④耕作放棄防止便益	ほ場整備によって労働環境が改善されるとともに担い手への農地集積が進むことにより、耕作放棄の発生 <sup>※2</sup> が抑制され、作物生産が維持される効果 ○耕作放棄による作付減少面積(ha)×単位面積当たり純益額(千円/ha) 評価期間の効果額の計 18百万円  ・参考(具体例) ブロッコリー-0.1ha×1,004千円/10ha=100.4千円/年

※1 国が示す荷痛み防止率を適用

※2 耕作放棄の発生予想面積は国が示す耕作放棄発生率の推計式を用いて算出

費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
ほ場整備	農地整備事業 (経営体育成型)	①作物生産便益	186	作付けが増加する作物 キャベツ・大麦(10.5ha増)	557	430	1.21
		②営農経費節減便益	486	労働時間の短縮(水稲) 現況 35.6時間/10a → 計画 15.8時間 保有機械の処分による経費削減 現況 219台 → 計画 58台			
		③維持管理費節減便益	△ 15	管理施設の増加による経費の増大 現況 水路8.8km,舗装6,277m <sup>2</sup> 計画 水路6.0km,舗装13,060m <sup>2</sup>			
		④耕作放棄防止便益	18	将来発生が予測される耕作放棄地(10.4ha)において、ブロッコリー-0.1haなどの生産が維持。			
		計	675				

費用便益比算定:「土地改良事業における経済効果の測定方法について」(農林水産省構造改善局長通達)